

忌のごときあればさも有べし、伊尹はあまりにや、禪家には古徳の號を付人、あまた聞ふるが、さ
らすともごおぼゆ、

〔續日本紀三文武〕大寶三年正月丙申從七位下茨田足嶋、衣縫造孔子、並賜連姓、

〔續日本紀二十五〕天平寶字八年正月己未、從五位下阿倍朝臣子路、爲左少辨、

〔山槐記〕治承三年正月十日己巳、今夕左衛門權佐光長嫡男略註加首服、右中辨經房朝臣猶子也、仍

於彼辨亭勘解由小路南、有此事略中、今夜光長相具冠者可參關白殿藤原基房、云々、依先例可獻名簿

云々、書樣事示合子藤原忠親

蔭孫正六位上藤原朝臣長房

治承二年正月十日

定長可清書云々、長房者故人名也、參議大藏卿長房也近代名字盡了、當世之人、多取故人名、件名無反音云々、

〔江次第抄三正月〕東堅 以三子爲アツハラ東孺、按舊簿、多以紀朝臣季明阿閉宿禰友成爲其名、中古以來以季

明定爲其名、不似尋常事也、

〔總見記八〕勢南御出馬所々合戰事同秀吉武勇事

扱モ此度木下ガ勸信長公大ニ御感ノタマセケルハ、今日八月二十七日藤吉ガ手ヲ負ナガラ門

ヲ破テ責入タル様、誠ニ古ノ朝伊名三郎義秀ガ勇力ニモ劣ルマジキ剛ノ者ナリトゾ褒仰ラレ

ケル、藤吉是ヲ忝存ケレバ、是ヨリ頓テ義秀ノ名乗ヲ打返シ、秀義ト名乗ル、サリナガラ義ノ字ハ、

公方様足利義昭御諱ノ字ナレバ、憚アリトテ文字ヲカヘ、木下藤吉郎秀吉ト名乗ケルハ、此時ヨリ

ノ事也ケリ、

〔人見雜記〕豐臣秀賴公幼名捨君

天正十九年八月五日早生せし捨君あり、三歳の由、妙心寺に葬る、然ば秀賴と異なり、萩泰昶云、天